

Title	古賀家本西遊録
Sub Title	
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.1 (1928. 3) ,p.142- 142
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280300-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

とを信ずる。

本書の内容を簡単に紹介すれば、第一章緒論に於いては神話學の意義から説きおこし、それと民俗學、土俗學との關係を論じて、神話學が文化人類學の一分科たる土俗學の一分枝であつて、宗教學や民俗學と姉妹關係にあることを説き、更に古代から現代にいたるまでの神話學の發展を叙し、その中に於いても殊に、教授自身が支持せらるゝ文化移動論を主張するところの所謂マンチエヌター學派の説をつよく紹介された。第二章本論に於いては神話の起原、その成長、その特質を論じ、第三章方法論に於いては材料の蒐集法と神話の分類法とを論じた後、比較研究法に論及して、統計的及び人類學的二研究法を特に詳説され、第四章はかくのことき研究法の應用によつてなれる白鳥處女説話の研究であり、第五章は鰐魚説話の研究であつて、この兩篇は著者自らその創意と苦心とを認めらるゝところの力作である。第六章は結論として本書全體の論述の總收をなし、最後に神話學の新職分を論じてゐる。とにかく本書は、『文化人類學的方法を以て世界の神話傳説を研究し、それを古代史闡明の證徴に役立てようとしてゐる』最近の神話學界の傾向の立場に立ち、泰西の諸學説を綜合してなれるものであつて、神話學を研究せんとするもの是非一讀すべきものである。(松本芳夫)

古賀家本西遊錄

プレットシユナイデルの支那中世史叢考を食讀したことも過去

となつたが、長春真人の西遊記とか、耶律楚材の西遊錄とかいふやうな書名は忘れ得ぬ。巴里ギョートネル書店から來た最近の目錄(九十一號)を見ると、

Si yeou lou (Voyage dans l'Ouest) de Ye-lin Tch'outsai, ministre de Gengis Khan. Textcomplete, publié pour la première fois par M. Kanda Kiichiro, 1927

とある。M. Kanda kiichiro は文學士神田喜一耶氏のことと兼て相識の間柄であるため、書を飛ばして同書懇望の意を告げた所、幸に一本の惠贈を得た。神田氏が宮内省圖書寮所藏の漢籍取調中古賀家の献本中に本書を發見せられ、而もそれが老學叢談に收められた西遊錄とは大いに相異してゐるので、段々調査せられると、古賀家本の原本は東福寺普門院の藏本で、普門院の藏本は大抵同院の開祖聖一國師が將來したものである。聖一國師が入宋したは四條天皇の嘉禎二年で、蒙古の太宗七年に當り、國師と耶律楚材とは時を同じうしてゐる。然も文和二年に編纂した普門院の藏書目錄の中に、西遊錄が見えて居るから、普門院本の西遊錄は確に聖一國師が齎し歸つたもので、完本であることはいふまでもないといふことになり、遂に自費を以て本書を印刷せられた次第である。喜一耶氏の祖父に當られる香嚴翁には自分は在阪の節入落して一再ならず拜晤したことがある、喜一耶氏の書物好きは確に香嚴翁の遺鉢を傳へられたのであらう。(幸田成友)

前田家本枕草紙 四冊